

古民家宿泊サイト予約

高級宿泊サイトの一休は、古民家を活用した宿の予約事業を始める。第1弾として古民家再生を手掛けるノオト（兵庫県篠山市）と組み、国家戦略特区に指定されている篠山市などでサービスを始める。当初は30軒程度で立ち上げ、将来は1000軒規模の取り扱いを目指す。訪日外国人観光客などの取り込みが進めば、地方の観光振興や空き家問題の解消にも一役買いそつだ。

一休、国家戦略特区で参入



古民家を再生した「篠山城下町ホテルNIPPONIA」（兵庫県篠山市）

生ずる事業を展開している。一休がこれらの古民家を対象とした予約システムを作り、ネット経由で宿泊客をつなぐ。外国語にも対応して訪日観光客も取り込む。

ノオトは自治体やホテル事業者などと組み、古民家を宿泊施設として再生事業を背景に再生事業が

再生事業者のノオトと連携

空き家問題解消に一役

広がりつつあるが、情報発信力の弱い地方の小規模業者などにとっては稼働率をいかに高めるかが課題だ。一休は高い集客力を生かしてパートナーを広げ、サービスの多様化を狙う。

日本政策投資銀行の調べによると、国内で空き家になっている古民家は約21万軒に上る一方、宿泊を希望する訪日外国人のニーズを満たすには約7400軒分の再開発が必要という。政投銀は、受け入れ体制が整えば、関連のインバウンド消費が年間380億円程度見込めると試算している。